

2022年度('21/11~'22/10)EPEクラブ活動報告

2022/10E現在 小椋

連番	1045	例会No.	一般 698	内容	金剛山・千早峠越え五条代官所跡 歴史探訪シリーズNo.46	実施年月日	2021/11/3	担当者	小椋(勝)、西村(晶)	
参加者	小椋勝久、西村晶、野口秀也、大森朋江、佐野雅美、喜多田恵美子、村木とも子、片山純江、中川由紀、寺島直子、西向美保子、三原秀元、前田守、神阪洋子、中村仁紀、岩本和行、實操綾子、大岡華子								参加者数	18
担当者コメント	<p>文久3年8月13日孝明天皇の大和行幸の詔勅が発せられ、その先駆けとして幕府方平定を目的で主将中山忠卿 19歳 総裁 吉村虎太郎 土佐藩 同 藤本鉄石 岡山藩 同 松本兼三郎 三河刈谷藩を中心に総勢39が8月14日京都方広寺に集合し天誅組を結成大和に向け出発する。8月16日堺港に上陸し途中狭山藩、富田林水郡邸、観心寺から千早街道を通り五条に向かい五条代官所に討ち入りし五条御政府を立ち上げる。今シリーズの歴史探訪は天誅組の足跡をたどり天誅組について語ります。河内長野駅からバスに乗り金剛山登山口で下車、そこから千早の町並みに入り千早峠へと向かう。千早村には古い建物も残り街道の面影を残す。マス釣り場から府道に入り池の川沿いの林道から千早峠に向かう。林道はさして急登もなく緩やかな道でこれなら武器や食料も運べるかなと考えながらある。紅葉も始まり穏やかな陽の中を歩いていると千早峠に着く。峠で昼食と私の下手な天誅組始末記を聞いてもらう。峠から五条に向かうが今はハイキングコースから外れているのかあまり人は通ってなく荒れていた。蜘蛛の巣をかき分けながら下山し国道310号へ出る。国道を少し歩き村中へと続く農道に入り天誅組が休憩したと言う岡八幡神社に向かう岡八幡神社でタクシーに乗り五條市史跡公園で下車し元五條代官所門内の資料館を見学し学芸員の説明を受ける。今回は天誅組の行程のほんの一部ですが学芸員の説明と私の講話で天誅組の概要が分かったのではないかと思います。これからこのシリーズは続き天誅組の悲運の道のりを歩みます。次回をこう御期待 記:小椋(勝)</p>									
連番	1046	例会No.	OP 342	内容	ビワイチ(びわ湖北湖一周150km)	実施年月日	2021/11/6~7	担当者	野原	
参加者									参加者数	
担当者コメント	中止									
連番	1047	例会No.	一般 699	内容	高御位山(たかみくらやま304m)	実施年月日	2021/11/7	担当者	前田、森本(善)	
参加者	前田守、森本善博、脇本勇二、佐野雅美、神阪洋子、黒澤百合子、安岡和子、飯尾廣子、保木道代、安本嘉代、安本昭久、大森朋江、川尻加代(体験参加)								参加者数	13
担当者コメント	<p>曾根駅から国道2号線を渡って民家の脇から入る。いきなり落ち葉の積もった岩場で、滑って怖い。草木を掴みなんとか登る。豆崎奥山を過ぎると200mの岩山、百間岩の登りになる。岩は固く滑りにくいので快適に高度をかせぐ。鉄塔の横を通って下って登ったところの鷹ノ巣山で休憩。ここからは播州の山々や明石海峡から淡路島や瀬戸内海、遠くに小豆島まで見渡せた。そこから岩場のアップダウンを繰り返すと高御位山に着いた。ここは人気があるのか、人が多い。山頂からは今日のコース全部がよく見える。高御位神社に参拝してから下山した。下りも岩場が続く、慎重に下る。北山分岐から鹿嶋神社へ降りた。村の中を通り曾根駅で解散をした。高御位山は低い山だが岩場の緊張感や、海が見える展望も良い山である。 記:前田</p>									
連番	1048	例会No.	OP 343	内容	鈴鹿・イブネ(1,160m)~雨乞岳(1,237.7m)「近畿の山」No.33	実施年月日	2021/11/13~14	担当者	小椋(勝)、杉本	
参加者	小椋勝久、杉本康夫、脇本勇二、大森朋江、上野あさみ、小椋美佐、村木とも子、安岡和子、北山かな、佐野雅美								参加者数	10
担当者コメント	<p>11月13日 近江八幡駅でタクシーに分乗し紅葉尾登山口に向かう 紅葉尾登山口からの登りはあまり急登もなくゆっくりと登ることができる。長尾山を過ぎたあたりから沢沿いを歩き、沢を上り詰め尾根に出るとそこからは鈴鹿の山々が見渡すことができ疲れも忘れてしまう。銚子ケ口東峰につき休憩し銚子ケ口に向かう 本峰は見晴らしが悪く三角点を確認し先に向かう、ここからはあまり人が入ってなくルートもわかりにくい、しばらく進むと水船の頭のピーク直下から水船の池への分岐が現れる。池まで下降し神秘的な池をしばらく見学し登山道へ戻る。ここからは人も少なく登山道も少し荒れているがルートはわかりやすくイブネに向かう。イブネまで少し時間がかりクランを過ぎたところで幕営する。テントを張り各テントで食事を済ませ就寝する。11月14日 5時半に起床し7時に出発する。イブネ北端を通りコケの絨毯のイブネに着く。イブネはテントが多くやはり人気の山なんだとあらためて実感する。イブネから杉峠、雨乞岳へと向かう雨乞は笹山で見晴らしが良く多くの登山者でにぎわっていた。雨乞からクラ谷ルートで沢谷乗越より行政界ルートでショートカットをして、御在所岳へ向かう御在所は観光客が多く今まで通ってきた道を思い出すとうんざりする。御在所からは新道を通り下山するが急な山道で下降と言ったほうが合う。時間をかけゆっくりと下降し一の谷山荘につきタクシーを待つ。タクシーを待つ間に解散し湯の山温泉駅に向かいました。 記:小椋(勝)</p>									
連番	1049	例会No.	一般 701	内容	太子町・御陵ハイキング	実施年月日	2021/11/17	担当者	前田、森本(善)	
参加者	前田守、森本善博、中村仁紀、喜多田恵美子、寺島直子、近藤さとみ、翁長和幸、三原秀元、岩本和行、西村晶、野口秀也、西向美保子、片山純江、實操綾子、中嶋恵子、飯尾廣子、保木道代								参加者数	17
担当者コメント	<p>今年は聖徳太子1400回忌に当たり、そのゆかりの地太子町をめぐるハイキングに行きました。最初は聖徳太子が祀られている叡福寺へ。奥にある太子御廟に参拝した。その後向かい側にある西方院(皇太子の乳母が建立)に行く。庭が良く整備されていた。そこから少し行くと小さい伝説我馬子の墓があった。明日香の石舞台古墳が馬子の墓と言われているが?何しろ1400年前の事だから謎が多い。それから街の中を行き、用明天皇陵(聖徳太子の父)、田園風景の中の推古天皇陵(初めての女帝)へ行く。歴史をよく知らないのでパンフレットによる知識をみんなの前で披露する。質問には答えられない。そこから田んぼのあぜ道の先に、こもりした二子塚古墳が有り、古墳の中に石棺が見える。この石は凝灰岩で二上山から運んだそうだ。こんな大きな石をどうして運んだのか、想像するだけで楽しい。その後小野妹子墓、孝徳天皇陵、竹内歴史資料館を見学して、飛鳥時代に中国や朝鮮半島の文化をもたらした竹内街道を通って帰路に着いた。 記:前田</p>									
連番	1050	例会No.	一般 700	内容	ベーシック登山No. 64 赤目四十八滝~落合	実施年月日	2021/11/21	担当者	山倉、西村(晶)	
参加者	山倉康次、西村晶、森本善博、渡辺健、堀千秋、岩本和行、保木道代、神阪洋子、脇本勇二、佐野雅美、古松育代、翁長和幸、近藤さとみ、安本嘉代								参加者数	14

2022年度('21/11~'22/10)EPEクラブ活動報告

2022/10E現在 小椋

担当者コメント	朝9時、赤目口駅に集合総勢14名です、駅前では人は少なく閑散としています。駅前の案内所の人によると滝周辺は紅葉見物客でいっぱいだそうです、バスもありますが今日はここから歩き始めます。車道を歩き途中から赤目ハイキングコース入り始めるころからちらほら色づいた楓が見られました。滝の少し手前では地元の人が作ったのか、手作りの案山子が5名で出迎えてくれています。10時半ごろ、赤目四十八滝入口に到着、駐車場も満タンで大変な人出でした、入山料500円を払って入場しオオサンショウウオの展示館などを通過し滝散策道へ、時々渋滞状態ですが紅葉は今が盛りでした。途中昼食休憩を取り12時過ぎに最終滝の岩窟滝に到着、ここから先は一変して人がいなくなり静かな山歩きが楽しめます。13時ころ出合茶屋に到着、集合写真を撮って小笹峠へひと登り、14時過ぎのバスに間に合うよう皆さんをせかせて下りました。14時10分頃全員バス停に下山でき解散としました、バスは14時28分でした。記:山倉									
連番	1051	例会No.	OP 344	内容	鈴鹿・御池岳～(1,247m)～藤原岳(1,009.5m)～竜ヶ岳(1,099.3m)「近畿の山リレー登山No.34」	実施年月日	2021/11/27～29	担当者	杉本、小椋(勝)	
参加者	杉本康夫、小椋勝久、村木とも子、安岡和子、佐野雅美、上野あさみ、大森朋江、小椋美佐							参加者数	8	
担当者コメント	11月27日(雪)前日までの小春日和で穏やかな天候から一転して、今日は西高東低の冬型の気圧配置に変わり寒々とした天候になった。鞍掛トンネルまで上がってくると稜線は雪化粧している。登り出す頃には雨は止んでいたが樹間から雨のしずくが落ちてくる。鞍掛峠からは雪に覆われ稜線上は晴れて風が強く風を避けて休憩する。御池岳まで登ってくると約1cmの積雪で風が強い、雪が止んでいるので眺望は抜群だ。ここから見るテーブルランドはただの雪原である。靴の底には雪が団子状態に付着し絶えず雪落しをしないとイケない。藤原山荘の宿泊者は少ないだろうと思っていたが10人ほどの先客があり私たちが入ると満杯状態になる。夜、風がまだ強い状態であったが晴れているので四日市の明かりが見える。11月28日(晴れ)朝のうちは風も弱く楽しい登りが藤原岳まで続く。山頂からは、富士山は見えないものの白山、御嶽山、乗鞍岳、中央アルプスなど360度の眺望だ。多志田山はピークを行かずトラバース道を選ぶが踏み跡が判りづらく通過に手間取る。竜ヶ岳の登りからは風はあるが日当たりも良く道は泥田を歩いているようだ。このあたりまで来ると登山者が急に増えだした。みんな日だまりハイクのような軽装で歩いている。登山口から近く簡単に登れて人気の山のような。石樽峠まで車で来られるので峠まで下るのに結構人とすれ違う。ここから八風峠までは合う人もなく静かな山旅だ。八風峠からの下りで谷筋に降りる頃には日没となる。ヘッドランプをつけ地図を確認しながらの下りは時間がかかる。八風ロッジで昨日、今日の山行を話題にビールで乾杯。11月29日(晴れ)今日は昨日までの寒さ、しんどさから解放されのんびりと集落の中をバス停まで歩き例会を終了しました。近畿の山リレー登山の最後を冬山を感じながら楽しく終えることが出来たのが良かったです。記:杉本									
連番	1052	例会No.	一般 702	内容	中葛城山(937m)	実施年月日	2021/11/28	担当者	西村(晶)、山倉	
参加者	西村晶、山倉康次、喜多田恵美子、森本善博、西向美保子、中村仁紀、實操綾子、黒澤百合子、片山純江、樫葉三代子、安本嘉代、松本明恵、寺島直子、近藤さとみ、翁長和幸、川尻加代							参加者数	16	
担当者コメント	林道大住谷線が始まる小梁橋に着く、お天気が良いので上着を一枚脱ぐ事にする。1時間程林道を歩き終えると小さな谷沿いの山道に入る、主稜線より外れた山域なので登山者に会う事は少ない。東條山の頂は緩やかな尾根にあり、木に吊るされた小さな道標が無いと通り過ぎてしまう頂上です。中葛城山に近づくにつれて紀ノ川流域の山並みを眺めながらのんびりと穏やかな雰囲気包まれた山歩きでした。記:西村(晶)									
連番	1053	例会No.	一般 703	内容	京都北山・半国高山(670.0m)	実施年月日	2021/12/5	担当者	杉本、山倉	
参加者	杉本康夫、山倉康次、有永寛、村木とも子、佐野雅美、上野あさみ、大森朋江、脇本勇二、北山かな							参加者数	9	
担当者コメント	半国高山のルートとして岩谷川からを予定していたが、このルートは倒木がひどく時間がかかりそうなので供御飯峠から半国高山往復に変更する。小野郷口バス停でバスを降り林道を行くがしばらくして山道に変わる。供御飯峠まででも北山杉の産地だけあって綺麗に杉の枝打ちがされている。供御飯峠にはお地藏さんが綺麗になった祠に奉られている。峠から半国高山へは里山らしく巻き道はなく尾根上を忠実に登っていく。高度差約270mを1時間ほどであっけなく山頂に着く。山頂は広く三等三角点の標石があるが樹木が茂って全く展望がない。天候は曇りながら風もないので意外と温かい。下りは落ち葉で踏み跡が隠されていて判りづらく、いつもながら枝尾根に迷わされルートから外れそうになる。供御飯峠から山道をしぼく歩くと舗装された道に変わり、コケで滑りやすくなっている。13時前に杉坂口のバス停に着き、解散しました。今回トレースしたコースは倒木もなく快適に登山を楽しめました。記:杉本									
連番	1054	例会No.	一般 704	内容	加西アルプス(善防山251mと笠松山244.4m)	実施年月日	2021/12/12	担当者	山倉、森本(善)	
参加者	山倉康次、森本善博、佐野雅美、脇本勇二、大森朋江、中村仁紀							参加者数	6	
担当者コメント	大阪駅からJRとローカル線乗り継いで2時間18分、第三セクター北条鉄道の播磨下里駅に10時18分下車、今日は駅から出発です。周囲は播磨平野のど真ん中ですが平地からいきなり低山ですが岩山が飛び出しているという感じです、舗装道路から林道へ入り善防山の登りはいきなり岩尾根、約1時間の登りで善防山到着。今日は天候の加減でもやがかかっていますが、展望の利く尾根登りです。次のピーク笠松山へのルートも岩尾根やスラブ状のコースにはっきりとルートが認められます、途中吊り橋などもあり変化に富んだコースを登り、12:20笠松山に到着、大休止とする。ここから一旦大柳ダム(砂防ダム)のバックウォーターまで下り対岸の尾根(馬の背)を登り返します。ピークの標高も250m程度ですので登りは15分ほど登ると稜線に出ます、登り返して元の善防山に引き返す途中から下山道を辿り播磨下里駅に14:40到着しました。記:山倉									
連番	1055	例会No.	OP 345	内容	千ヶ峰(1,005m)	実施年月日	2021/12/19	担当者	小椋(勝)、西村(晶)	
参加者	小椋勝久、西村晶、村木正人、佐野雅美、上野あさみ、大森朋江、村木とも子、小椋美佐							参加者数	8	
担当者コメント	昨日からの寒波で市原登山口は雪で登山口まで行けないのではと考え三谷登山口からの往復に切り替えました。駐車場で挨拶をして薄っすらと積もった登山道を歩き始める。雪の中にひっそりと佇む雄滝、雌滝を通りすぎると雪も増えてきて岩座神コースの分岐に着くころは20cm程度の積雪になる。枝に積もった雪の間から観る空は抜けるような青さでとてもきれいでした。1,005.2mの山頂は360°の展望で雪を被った中国山地を見渡せることができ山頂で写真タイム、時間があるので皆さん思い思いの写真撮っていました。展望が良いだけに吹きさらしなので早々に下山し途中で食事を済ませ雪解けのドロドロの登山道を下山し駐車場で解散しました。記:小椋(勝)									

2022年度('21/11~'22/10)EPEクラブ活動報告

2022/10E現在 小椋

連番	1056	例会No.	一般 705	内容	(ベーシック登山No.65) 京都・大文字山 忘年登山	実施年月日	2021/12/26	担当者	野原、西村(晶)	参加者数	4
参加者	野原勇、西村晶、寺島直子、佐野雅美									4	
担当者コメント	<p>例会実施前から「日曜日は記録的な大寒波が襲来する」という天気予報が繰り返し出されたためか参加者が当初予想した人数より少なく、集合時間を15分余り延長しましたが増えることなく4名での山行となりました。天候は雲の間から青空が見えることも多くて視界もあり、風は少々強かったのですが特段の支障はありませんでした。蹴上駅を出て、蹴上浄水場真正面の日向大神宮に続く石段を登る。稜線までの登りが今日一番の急登。コースは整備されており、また所要所には京都市一周トレイルの標柱等が立っていて迷うことなし。大文字山頂上11:00到着。視界も開け、「京都タワー」は勿論のこと大阪市内のビル群、「あべのハルカス」も見える。丸太を加工したベンチが沢山あって休憩にはもってこいだが、昼食には早いため少し足を延ばして大文字の火床まで向かう。昼食は大文字火床の「弘法大師堂」前で摂る。展望は最高の場所だが気温0度、冷たい風が吹き付ける中では長居をする気にもなれず15分程度で休憩を切り上げる。火床から銀閣寺まで下降は30分程度、あっという間に銀閣寺に到着しました。銀閣寺から西へ参道を進み「銀閣寺橋」を過ぎた辺りで例会を解散。蹴上駅出発から休憩時間込みで3時間でした。解散後、出町柳駅に向かっていると、今出川通りを走る通過車両が異常に少なく、かつ警察官等が全ての交差点に張り付いていました。今日は「全国高校駅伝」の開催日だったので。男子は広島・世羅高校、女子は宮城・仙台育英高校の優勝でした。2021年最後の例会が終わりました。EPEクラブメンバーの皆様、良いお年をお迎えください。 記:野原</p>										
連番	1057	例会No.	一般 706	内容	新年登山 播州・鬢櫛山(びんぐしやま 186m)～苦編山(とまみやま165m)～ 京見山(216m)	実施年月日	2022/1/9	担当者	前田、山倉	参加者数	17
参加者	前田守、山倉康次、喜多田恵美子、片山純江、實操綾子、保木道代、脇本勇二、佐野雅美、渡辺健、上野あさみ、安本昭久、堀千秋、黒澤百合子、安本嘉代、安岡和子、川尻加代 大森朋江									17	
担当者コメント	<p>今年の初登山は播州の山へ行きました。JR姫路駅で降りて姫新線に乗り換え時、乗り換え時間が5分しかなく又ホーム迄離れていて、さらに切符や交通カードが自動改札機を通せない人がいて、慌てて乗ったが、間違えて播但線に乗った人がいて後からタクシーに乗って合流するという、波乱万丈のスタートとなった。高岡駅の線路を渡ってすぐの登山口から登った。暖かいので直ぐ冬服を脱ぐ。落ち葉の積もった急斜面を登ると鬢櫛山に着いた。周りは背の低い落葉樹で葉っぱも落としているので、展望が良く姫路城を初め姫路市内が良く見えた。苦編山で昼食。天気が良く、遠くに瀬戸内海がキラキラひかり、家島諸島が霞んで見えた。そこから夢前川を右に見て徐々に下って行った。町に降りて30分程歩くと京見山の登山口。低い木が生えた斜面を登った。京見山は登りも下りも道がいっぱい有り、下りほどの道を下るか迷いながら降り、はりま勝原駅で解散をした。播州の山は低いが、駅が近く、展望もよくて岩場もあり楽しいハイキングコースだった。 記:前田</p>										
連番	1058	例会No.	一般 707	内容	高岳(610m)～広橋峠 歴史探訪シリーズNo.47	実施年月日	2022/1/16	担当者	小椋(勝)、翁長	参加者数	10
参加者	小椋勝久、翁長和幸、安岡和子、村木正人、村木とも子、脇本勇二、大森朋江、神阪洋子、小椋美佐、佐野雅美									10	
担当者コメント	<p>近鉄下市口からバスに分乗し長谷で下車。丹生川上神社下社の広場で挨拶をし、県道を歩き始める。暫く歩き西山集落の下市口コミュニティセンターから林道に入り城山登山口に向かう。(※下市口駅にて地元警察の遭難注意のお知らせを受け取る大峰で数件遭難があったらしい。) 城山の裾の平坦な登山道を歩いていくと尾根に出る、ここからは伐採のための林道を歩く。本来ならば尾根道を高岳に向かうのところが林道で登山道は分断され、どこに登山道があるのか分からなくなっている。林道を暫く歩くと地図上の高岳(610m)が西側に現れるが登山道他何もなく北にある三角点が設置されているピーク(611m)に向かう。これも登山道は荒れていて611mの三角点も倒木に埋もれていました。ピークで休憩を取り天誅組奇談を話す。休憩後、天誅組古戦場跡広橋峠へと向かう、途中天誅組砲台跡の案内板を読むが遺構らしきものはないとのことなので先へと急ぐやはりこの辺りも天誅組の隊員たちが走っていたのかと思うと感慨深い。尾根に登山道があるのは分かっているのだが、とりつきが分からなく途中尾根に上がってみると登山道は荒れ果て歩ける状態ではなかった。そのまま里道を歩き栃本の集落に出てタクシーを呼び下市口駅に向かう。下市の集落も天誅組が火を放ち全焼したらしい。下市口駅で解散し帰途へとつく。 記:小椋(勝)</p>										
連番	1059	例会No.	一般 708	内容	比良・武奈ヶ岳	実施年月日	2022/1/23	担当者	山倉、杉本	参加者数	
参加者											
担当者コメント	積雪過多中止										
連番	1060	例会No.	一般 709	内容	大峰山(宝塚)552m	実施年月日	2022/1/30	担当者	前田、西村(晶)	参加者数	20
参加者	前田守、西村晶、神阪洋子、佐野雅美、飯尾廣子、上野あさみ、村木とも子、安岡和子、喜多田恵美子、中嶋恵子、中村仁紀、中川由紀、西向美保子、峯岡宣重、脇本勇二、黒澤百合子、安本昭久、安本嘉代、中原正治、中原俊子									20	
担当者コメント	<p>日毎増えていくコロナ患者。こんな時に山へ行っても良いのか、参加者はいるのか心配しながら集合場所へ。なんと20名の参加者があつまっていて。嬉しさ半分、心配半分。スタートして中山寺にて、今回の山行でクラスターが発生しないよう祈願した。まだ蕾の硬い中山梅林の横を通り、足洗川沿いの落ち葉の積もった道を登る。登るルートが多くあり、この辺に詳しいKさんに教えてもらいながら行った。途中から尾根に出て天宮塚の展望台に着く。ここからは宝塚市内や大阪湾が良く見えた。そこから少し行くと今日の1つ目のピーク中山に到着した。ここからの眺めがよい。そこから山陽自然歩道を下り、県道を渡るといきなり急な登りが続いた。その後尾根に出ると緩やかな登りになり、周りが樹林に囲まれた展望のない大峰山に着く。真新しい大峰山と書かれた看板の前で集合写真を撮った。そこから下って行く武庫川渓谷が見えてきた。桜の園を通して更に下ると旧福知山線廃線道に出た。40数年前、泉州山岳会で百丈岩へ行く時、ディーゼル車両に乗ってここを通過して行ったのが懐かしかった。廃線道のトンネルを2つ抜けると武田尾駅に着いた。今回はみんなが三密を避けて、常時マスクを着用して行動してくれたので、クラスターが発生する事はないと思い、安心して帰路に着いた。 記:前田</p>										
連番	1061	例会No.	OP 346	内容	播州赤穂、亀甲山・百間岳プラスアルファNo.27「牡蠣料理」	実施年月日	2022/2/5~6	担当者	杉本、前田	参加者数	

2022年度('21/11~'22/10)EPEクラブ活動報告

2022/10E現在 小椋

参加者								参加者数	
担当者コメント	コロナ禍中止								
連番	1062	例会No.	一般 710	内容	金剛山(1,125m)	実施年月日	2022/2/6	担当者	西村(晶)、森本(善)
参加者	西村晶、森本善博、西向美保子、中村仁紀、安岡和子、村木ともこ、脇本勇二、有永寛、中嶋恵子、上野あさみ、中原正治、中原俊子、祓川美登里							参加者数	13
担当者コメント	週末は寒波到来で霧氷の景色を期待できそうだが、カリカリに凍った黒梅谷道を滑らないように慎重に進む。カトラ谷出合いに着くと雪はうっすらと残っている、黒梅尾根の取付きは不明瞭だが目印の赤いテープを見つけて登り出す。石づて尾根まで標高差300メートルの登りはきつく踏み跡も見つけにくい、1時間程で尾根道に合流する。尾根道に出ると木々にはうっすらと霧氷が、自然の造形を楽しみながら山頂広場に向かう。伏見峠より緩やかな山道を進み久留野峠に、木漏れ日の広がる穏やかな山々に抱かれた山歩きでした。記:西村(晶)								
連番	1063	例会No.	OP 347	内容	湖北・赤坂山 スノーシュー体験登山	実施年月日	2022/2/12~13	担当者	板谷、小椋(勝)
参加者								参加者数	
担当者コメント	コロナ禍中止								
連番	1064	例会No.	一般 711	内容	鎌倉峠と百丈岩	実施年月日	2022/2/20	担当者	山倉、西村(晶)
参加者	山倉康次、西村晶、前田守、脇本勇二、森本善博、森本咲穂、村木とも子、西村まさみ、上野あさみ、大森朋江、佐野雅美、飯尾廣子、黒澤百合子、中原正治、中原俊子							参加者数	15
担当者コメント	今日はJR道場駅からのスタートです、冬型が一段と厳しいなか水辺の行動がちよっと気になりますがとりあえず百丈岩を目指して出発、数十年前によく通った道ですが下から見上げる岩場には寒さのせいかクライマーの姿はありませんでした。フィックスロープと鎖のコースを辿り、10:00百丈岩の登攀終了点に到着、記念写真を撮って元のコースを辿って10:30休憩所に降りました、ここから船坂川の右岸を進みますが、湿った川沿いのコースは滑りやすく結構スリルがあります、ところどころにある鎖や、岩肌に打ち込まれた鉄ピンを頼り行きますが、寒空の中滑って川へ落ちたら大変です、当然皆さんペースはゆっくり慎重になります。やばそうなところはちょっと高巻きしたりして、11:50日当たりの良い河原で昼休憩 をとりました。13:30頃鎌倉峠出合いに着き、左岸へ渡渉しなければなりません、さてどうするか、靴を脱いで冷たさを我慢して渡る人、靴のまんまじゃぶじゃぶ渡る人、上手にぬれずに渡った人、それぞれ好きな方法で渡り終えて登山道を平田 配水池経由で道場駅へ戻り、14:20予定通り5時間の行動で本日の山行を無事終了しました。記:山倉								
連番	1065	例会No.	一般 712	内容	和泉山脈・お菊山	実施年月日	2022/2/27	担当者	翁長、小椋(勝)
参加者								参加者数	
担当者コメント	コロナ禍中止								
連番	1066	例会No.	OP 348	内容	駒の尾山～後山	実施年月日	2022/3/5~6	担当者	小椋(勝)、板谷
参加者								参加者数	
担当者コメント	コロナ禍中止								
連番	1067	例会No.	一般 713	内容	湖北・横山～鳥羽上山	実施年月日	2022/3/6	担当者	野原、杉本
参加者								参加者数	
担当者コメント	雨天中止								
連番	1068	例会No.	一般 714	内容	金剛山地 タンボ山(763m)	実施年月日	2022/3/13	担当者	西村(晶)、前田
参加者	西村晶、前田守、安岡和子、脇本勇二、有永寛、佐野雅美、黒澤百合子、森本善博、大森朋江、祓川美登里、木下春雄							参加者数	11
担当者コメント	一つ目のピークは急峻な尾根道を登り終えた尾根上にあるので通り越してしまいそうなピークの田山。二つ目のピーク 府庁山は三差路になっています、旗尾山方面と十字峠に向かう路が合流しています。十字峠よりダイヤモンドトレールまでの山道は道幅も狭く不明瞭な踏み跡を探しながらの山歩きになります、分岐の道の一つ間違えると縦走路に出る事が出来ないかもしれませんので、地図と磁石は必要です。三つ目のピーク タンボ山は縦走路から少し外れた所にあります、登り口の所には標識やテープの目印も有りませんが、五分も登れば木の生い茂ったタンボ山の頂きに登る事が出来ました。記:西村(晶)								
連番	1069	例会No.	一般 715	内容	(ベーシック登山No.66)奈良 柳生街道(滝坂の道コース)	実施年月日	2022/3/20	担当者	山倉、杉本
参加者	山倉康次、杉本康夫、森本善博、前田守、大森朋江、上野あさみ、北山かな、脇本勇二、渡辺健、堀千秋、村木とも子、安本嘉代、安本昭久、安岡和子、保木道代、神阪洋子、佐野雅美、中村仁紀							参加者数	18

2022年度('21/11~'22/10)EPEクラブ活動報告

2022/10E現在 小椋

担当者コメント	<p>近鉄奈良駅から路線バスで約30分、忍辱山バス停に10時前に到着、バス停のすぐ横が円成寺でした。円成寺の境内を経て古道を奈良に向け歩き始めますが、お彼岸なのに防寒着を着こむくらい寒い寒空です。道は東海自然歩道でよく整備され、指導標もしっかりしています。ところどころ石畳の道は苔むしていて、江戸時代には剣豪や生活物資を運んだ人たちが往来した光景が目に浮かぶようです。林間の道を約1時間、開けたのどかな田畑が見渡せる里に出て小休止。峠の茶屋まであと少しです、11時20分石切り峠手前の茶屋着。昔の旅人はここでお茶と団子などで一休みしたのでしょうか、峠からは下り道となり春日山の原生林域にはいってゆきます。11時40分首切り地蔵前の四阿で昼休憩、ここまでくると結構ハイカーの姿も見られます。溪流沿いの苔むした石畳を、朝日観音、夕日観音、寝仏などの石仏を眺めながら下り、春日大社への道を変更して高円山白毫寺に立ち寄り、ならまちなどを散策して14時40分近鉄奈良駅に到着、解散としました。 記:山倉</p>									
連番	1070	例会No.	一般 716	内容	和泉山脈・大川峠(152m)～紀淡海峡	実施年月日	2022/3/27	担当者	翁長、西村(晶)	
参加者	翁長和幸、西村晶、石上幸代、西向美保子、中川由紀、中村仁紀、喜多田恵美子、村木とも子、寺島直子、前田守、佐野雅美、脇本勇二、木下春雄、森本善博、三原秀元、西村まさみ、砂山友子、田中喜久枝、原正和、原康子							参加者数	20	
担当者コメント	<p>休暇村園地駐車場にそれぞれのマイカーで20名が集まった。大川トンネル加太側入口手前から、208mの西の主稜線にあがる。ここからは獣道も何もない。どこも雑木林でモヤァーと広がっている。大川山堡壘跡までの200m弱が難儀なコース取りとなる。前回は結局ルートが分からず、この辺りから下山した。今回は地図上でコースを作りGPSに入力してきた。たびたびチェックし進む。雑木林の中に立派な擁壁が現れた。大川山堡壘跡である。ここまで藪漕ぎも無くうまくたどり着いた。擁壁から右手の小さい空き地に、ほとんど埋まっているドーム状の開口部が目にとまった。弾薬庫と思われる。大川山堡壘はまだ未調査で雑木林に埋もれたままである。この西側にはお地蔵さんとお稲荷さん、神様が3つ並んで祀られている。右読みの地図(多分、戦前の地図)では、ここが大川峠だと記載されている。昔は紀州越えの峠道だったのだろう。お地蔵さんの横には軍道を示す「陸 三〇」の石柱が倒れている。石垣が崩れ歩きにくい。ハッキリとした軍道が車道まで下っていく。登り返して大川峠より西の深山第一砲台跡へ。発掘調査中の砲台跡を過ぎて整備された軍事遺産を巡る。四阿のある広場からは地の島、友ヶ島、淡路島が手に取る様に眺められる。紀淡海峡の景観は誠に素晴らしい。これより和泉山脈終焉の海岸まで下る。途中には「海軍」の石柱がたっていた。この道沿いにも軍事遺産が点々とあり調査中らしい。さらに下ると目の前に海があらわれる。ついに和泉山脈の終わりまで来た。記念に全員で写真を撮り、駐車場へ戻った。高森山から旧大川峠までは「雑木林でモヤァーと広がっている」と先に述べたが、地図上でも分かりづらい地形である。今日はGPSにお世話になった。今回は和泉山脈終焉の地である「紀淡海峡の波打ちぎわ」までが主眼であったが、おまけとして軍事遺産、特に無整備の大川山堡壘や紀州越への旧大川峠をたどれたのが興味深かった。 記:翁長</p>									
連番	1071	例会No.	一般 717	内容	湖北・東山(595m)	実施年月日	2022/4/3	担当者	野原、森本(善)	
参加者	野原勇、森本善博、佐野雅美、安本嘉代、前田守、三原秀元、安岡和子、中原正治、中原俊子、安本昭久、大森朋江							参加者数	11	
担当者コメント	<p>この「湖北・東山」例会は過去3年連続で小椋さんが計画していましたが、「雨天中止」や「コロナ禍中止」で実施未済となっていたもの。「三度目の正直」ならぬ「四度目の正直」として計画しました。永原駅で身支度を整えスタート。JRのガード下を通り黒山集落へ。直ぐに集落の外れにある小さな牧場(馬が2頭、小さい馬ポニーの可愛い目が印象的でした)に行き着く。そのまま直進、獣害防止用ゲートを開けて所々に残る残雪を踏んで万路越を目指す。万路越は地形図を見ると5方向に分かれる峠でお地蔵さまが安置してありました。ゲートから万路越を越えて493mの小ピークまでは登り方だが、それ以降東山までは登り下りが適度にあって体力的に楽。獣害防止のビニール紐が巻かれたスギやヒノキなどの樹林を歩き峠山(531m)で昼食、ベンチ代わりになる倒木が多い。昼食後、566mのピークにある竹生島展望所(電波反射板あり)に向かう。ここは樹木が切り開かれているので竹生島が手に取るようにハッキリ見えました。竹生島展望所から東山(595m)のピークへ向かう。途中東山北峰を経て東山の頂上着。東山頂上から下るコースを間違え、激下りした急斜面を登り返すミスをしてしまった。原因はネットで調べた状況(落ち葉に覆われた急斜面を降りる)と木に巻かれたテープに頼ったこと。途中GPSで確認すると予定したコースを外れている。そのまま下っても道路に降りることは確信できましたが地形図で確認すると傾斜がより強い箇所があり安全のため引き返す。稜線間近でトラバースし登山道に復帰。その後は間違えることなく海津大崎の遊歩道に到着しました。この例会は登山中誰にも会わず静かな山歩きができました。ネットで検索すると落ち葉だらけの急斜面を下ると記録している記録が多いが、これはコースミスをしていると思われます。この山は壁がないので無理すればどこでも下れますが、気を付けていれば間違いようのないコースです。但し、万路越から下山口までは倒木だらけで、落ち葉も大量、スリッパしないよう慎重に歩くことが必要です。遊歩道に下りた後は、大崎寺を経て、大音量の鳴り響く売店が集まった湖周道路に降り立ち一路マキノ駅へ向かう。途中花見団子の販売店が多数ありました。今回は山だけでなく、花見も欲張りましたが桜の方はサッパリ。彦根地方気象台が滋賀県の開花宣言をしたのが3日前。ここ海津大崎は彦根よりも遅くてほとんどの桜はまだつぼみ状態、1週間遅ければ満開近し、2週間遅ければ桜吹雪の中を歩けたのではないかと思った次第です。 記:野原</p>									
連番	1072	例会No.	一般 718	内容	金胎寺山(296m)と富田林寺内町 郷土巡りシリーズNo.1	実施年月日	2022/4/10	担当者	紀伊壱本(節)、小椋(勝)	
参加者	紀伊壱本節雄、小椋勝久、森本善博、前田守、杉本康夫、西村美幸、川崎喜美子、小椋美佐、安岡和子、飯尾廣子、喜多田恵美子、實操綾子、西向美保子、中川由紀、村木とも子、寺島直子、北山かな、上野あさみ、大森朋江、保木道代、村木正人、中村仁紀、木下春雄、脇本勇二、西村晶、紀伊壱本博美、神阪洋子、河合幸夫							参加者数	28	

2022年度('21/11~'22/10)EPEクラブ活動報告

2022/10E現在 小椋

担当者コメント	<p>快晴に恵まれました。登山口でいきなりTシャツ一枚になり久しぶりの解放感を味わいました。金胎寺山は標高298mの小さな山ですが、さすがに山頂は山城の風貌が備わり展望は360度満点です。ここから北東に連なる尾根上に嶽山と呼ばれる同じ楠木七城の山城があるのですが、今は「簡保の宿」が運営されていて中間にある私有地(みかん山)は通過出来ないそうです、もし連なって歩けたら楽しいハイキングコースになるでしょうね、もったいない話です。畠山義就はこの連郭する2つの山城を活用して長期にわたる籠城戦に成功したと伝えられています。余談ですが、嶽山の「簡保の宿」から見る金剛葛城連山は、正に東に対面する屏風の如くその御来光は絶品だと思えます。来年の新年会は、EPE創立20年を記念して豪華に泊り掛けとは如何でしょうか。さて郷土巡りの後半は、寺内町への道すがら天誅組河内勢の首領・水郡善之祐の屋敷(現存、見学不可)を探りました。錦織神社から東へ近鉄線を横切り、道幅の狭い角々がわずかに食い違う江戸期の屋敷街、土堀に囲まれた水郡邸を見出すのはなかなか難しいことです。でも、ぐるぐる巡る内に彷彿として浮び上がる光景は文久3年(1863年)8月、京都で決起され堺の港に上陸し狭山を通過してこの地に現れた天誅組の若き人々です。中山忠光、吉村虎太郎、彼らはこの屋敷の一夜で何を夢見たのでしょうか、やがて遭遇する熾烈な運命、それは我々世代の曾爺さんの頃の出来事でした。続いて、石川沿いの土手道を歩み石畳と白壁が続く寺内町にやってきました。気温は今季最高25度にも上昇していたようで、旧杉山邸の大屋敷の中はホットする涼しさでした。この屋敷の惣領娘石上露子(杉山タカ)は明星派の歌人、その代表作「小板橋」について、この歳にしてあまりにも感嘆するわたしを見て少し呆けたかなと思われたでしょう。いいんですそれで、人は老いてこそ知る惜別の情のこれが変形かも知れません。ところで、この屋敷の玄関口がNHK朝ドラ「カムカム・・・」の豪邸、来嶋家のロケイションであったことに話は盛り上りましたね。偶然の巡り合わせとは云へ、こちらは大変愉快な話題になりました。ではおわりに、石上露子(いそのかみ つゆこ)作「小板橋」をご鑑賞ください。</p> <p>ゆきずりのわが小板橋 しらしらとひと枝のうばら いずこより流れか寄りし 君まつと踏みし夕に いひしらず沁みて匂ひき (うばら=野ばら、夕=夕べ)</p> <p>次回、郷土巡りシリーズもまた皆様のご支援をお願いします。 記:紀伊壱本(節)</p>
---------	--

連番	1073	例会No.	一般 719	内容	新籠アルプス・亀山(きのやま457.8m)	実施年月日	2022/4/17	担当者	杉本、山倉
----	------	-------	--------	----	-----------------------	-------	-----------	-----	-------

参加者	杉本康夫、山倉康次、三原秀元、脇本勇二、保木道代、原康子、佐野雅美、中村仁紀、大森朋江、村木とも子、安本昭久、安本嘉代	参加者数	12
-----	---	------	----

担当者コメント	<p>東鶯崎駅から約45分で馬立登山口に到着する。登山口の馬立古墳群には31基の石槨があると案内板にあったので登りながら探したがそれらしき古墳は確認することが出来なかった。稜線から5分ほど下ったところにある亀の池に立ち寄る。亀の池からは弥生時代の土器が出土したそうで、ダム湖のように広がったつの市の水源にもなっている。稜線に戻る少し手前に亀岩があり池に下るときに気づかず通過したが、上から見ると亀の頭、肩になっていることが見てとれる。亀山には中世の城山城(きのやまじょう)が築かれていて中心部に三基墓があり赤松一族69人が自害した場所と言われている。稜線の両側は樹木が密集してなく適度に展望が利き春の心地よい風と適度の気温で気持ちよく歩くことが出来た。新籠アルプスとは新宮町と龍野市の境に聳える山脈から名前が付いたといわれています。的場山からは春霧がかかったように瀬戸内海が一望できる。急傾斜を下ると正面には鶏籠山が山名そのもので籠の鳥のようです。鶏籠山も龍野古城跡がありのちに麓に龍野城が築かれたといわれる。市街地まで降りてくると龍野の町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建地区)に選定され、地区の学校では伝統的な建物を利用し昔の名称で水練場や屋内運動場として利用されていてうらやましい限りです。 記:杉本</p>
---------	--

連番	1074	例会No.	OP 349	内容	杉峠～釈迦ヶ岳(1,092m)	実施年月日	2022/4/23~24	担当者	小椋(勝)、杉本
----	------	-------	--------	----	-----------------	-------	--------------	-----	----------

参加者	小椋勝久、杉本康夫、中村仁紀、大森朋江、上野あさみ、小椋美佐、村木とも子、北山かな、佐野雅美	参加者数	9
-----	--	------	---

担当者コメント	<p>4/23 近江八幡駅からタクシーに乗り甲津畑登山口に着くと雨乞岳かイブネに行く登山者の車だろうか駐車場には多くの車。登山口からは谷あいの山桜が咲き誇り新緑とのコントラストがとてもきれいでした。登山口で挨拶を済ませ林道を歩き始める。明日からは雨の予報だが今日は晴れ、ゆっくりとした歩調でなだらかな登山道を杉峠に向かう。途中、杉谷住善坊の隠れ岩、蓮如上人御休跡、大シデなどを通り杉峠へ、峠からコクイ谷、三国岳方面を望むと山桜がとてもきれいでした。杉峠から御池鉦山跡を通りコクイ谷出合いから数回渡渉を繰り返して鈴鹿の上高地と言われる神崎川右岸のなだらかなブナ清水に着く。少し早いですが TENT を張り車座になりワイワイとしゃべりながら食事を済ませ雨が降らないことを祈り就寝する。</p> <p>4/24 四時半に起床する。幸いにも雨は降ってなく早々に TENT を撤収し食事を済ませ出発する。根の平峠を通り過ぎ水晶岳に着いた頃からポツポツ雨が降り始める。中峠に着くころには本格的な雨になりカッパを着る。雨の中、羽鳥峰峠、花崗岩が風化し禿山になった羽鳥峰を通過、晴れていれば景色が良いのではと考えながら尾根道を歩き猫岳から釈迦ヶ岳を通過し最終ポイントの八風峠へ着く。去年、御池岳から三池岳、八風峠と来たので念願がかない繋げることができ皆一様に喜んでいました。記念写真を撮り去年迷った道を確認しながら下山する。キャンプ場で着替えているとあちこちから悲鳴が！！！！鈴鹿 恒例のヒル騒動が始まり大騒ぎ、やっとのこと着替えを済ませ迎えに来たタクシーに分乗し帰途に着きました。 記:小椋(勝)</p>
---------	---

連番	1075	例会No.	一般 720	内容	和泉山脈・榎尾山周回	実施年月日	2022/4/24	担当者	翁長、西村(晶)
----	------	-------	--------	----	------------	-------	-----------	-----	----------

参加者		参加者数	
-----	--	------	--

担当者コメント	雨天中止
---------	------

連番	1076	例会No.	OP 350	内容	加賀白山(御前峰2,702.1m)	実施年月日	2022/5/1~3	担当者	山倉、森本(善)
----	------	-------	--------	----	-------------------	-------	------------	-----	----------

参加者	山倉康次、森本善博、安岡和子、上野あさみ、大森朋江、有永寛、村木とも子、佐野雅美、脇本勇二、杉本康夫、小椋美佐、小椋勝久、中村仁紀、村浪義光	参加者数	14
-----	--	------	----

2022年度('21/11~'22/10)EPEクラブ活動報告

2022/10E現在 小椋

担当者コメント	5月1日(日) 9時難波集合で車に分乗り市ノ瀬に向かう、今日は一日雨模様、移動日なので気になりませんが到着のころにはやむことを期待して車を走らせました。当初計画では別当出合まで車で入る予定でしたが、事前問い合わせで車は市ノ瀬止まりです、夕方雨のやむのを待ってテントを張りました。5月2日(月) 今日は快晴のようです、6時準備を済ませて林道を別当出合登山口へ出発、8時登山口着、まだ快晴です、積雪のため登山口の鳥居の上の部分が折れていました、入山者は結構いるようで、いきなりの雪道も踏み跡があり快適に登れます、中飯場のトイレ前に9時着、ここから上部の尾根上(別当視付近)に出てアイゼンを装着、ほぼ尾根通しに登り甚之助避難小屋へ11:20着。このころから上部に雲が見られてきました、避難小屋を出発後約1名の体調不良者が出、稜線まじかの標高2,090m付近で雪になり、風もあり吹雪いてきたので後行程のことも考え安全を期して下山決定し、15時全員別当出合に下山しました。下山決定も皆さんには快く受け入れていただき感謝しております。下山後の情報で、室堂付近では新雪が30cm程積もったそうです、17時ころ市ノ瀬まで降りて、一日早い山行を終りました。記:山倉									
連番	1077	例会No.	一般 721	内容	金剛山(1,125m)	実施年月日	2022/5/8	担当者	西村(晶)、翁長	
参加者	西村晶、翁長和幸、中村仁紀、村木ともこ、脇本勇二、祓川美登里、佐野雅美、大森朋江、保木道代、原康子、石上幸代、寺島直子、山倉康次、安本昭久、安本嘉代、飯尾廣子、神阪洋子、河合幸夫、黒澤百合子、前田守、西村まさみ、砂山友子、田中喜久枝							参加者数	23	
担当者コメント	山に咲く花々が色鮮やかに咲き乱れている時期に行けるのは偶然かもしれないが、今回のカラ谷と久留野峠までの登山道沿いにも色とりどりの花々が沢山咲いていました。台風21号によるカラ谷は大規模に崩落しましたが、標高970mあたりに広がるお花畑は被害は無かったようです。土石流防止ネットの横をすり抜けて少し登ると見覚えのある登山道を進んでいくと、ニンソウの群生地が現れましたが、真っ白なニンソウの花は褐色に姿を変えていました、少し遅かったかな。登山道より左の尾根道に回り込むと一株のヤマシャクヤクが可憐に咲いていました、あたりを見渡すと沢山咲いていました。ヤマシャクヤクの花は見頃でした。国見城跡に出ると八重桜が満開で迎えてくれました、伏見峠手前のピクニック広場あたりでは真っ赤なツツジとシャクナゲを見る事ができました。5月初旬の金剛山はお花がいっぱい咲いています。記:西村(晶)									
連番	1078	例会No.	OP 351	内容	丹波・氷ノ山(1509.8m)～鉢伏山(1221.6m)	実施年月日	2022/5/21~22	担当者	杉本、西村(晶)	
参加者	杉本康夫、西村晶、上野あさみ、村木とも子 佐野雅美 中村 仁紀 脇本勇二 大森朋江 村浪義光 有永寛 小椋勝久 小椋美佐							参加者数	12	
担当者コメント	5月21日 氷ノ山国際スキー場の駐車場で敦賀市から参加の村浪さんと合流し出発する。スキー場のオフシーズンは人の気配がなく閑散としています。約30分で東尾根避難小屋に到着。今回のルート中に避難小屋が4カ所あり宿泊するには大変ありがたい。小屋の大きさが4m×3mで真ん中に囲炉裏があり7~8人が寝られるようです。反面私たちのように多人数では少し小屋の大きさが不足する。尾根上は杉や檜の植林が少なく自然林が多く今の季節は目にも鮮やかな新緑で気持ちが安らぎます。氷ノ山山頂には姫路の中学校の160名の団体でいっぱいでした。氷ノ山越で水を補給し16時少し前に今夜の宿泊の大平頭避難小屋に到着する。少しすると先ほどの中学生たちが避難小屋を通り過ぎて行きました。大久保付近で泊まる予定だそうです。引率の先生も大変です。避難小屋が狭いので小屋内と床下に分かれて寝ることになる。夜中、雲がなく星が綺麗に見えました。月は半分かけていたが明るく光っていました。5月22日 6時に出発、今日は鉢伏山に登ります。ハチ高原スキー場を右手に見ながら急斜面もなくピッチが上がり1時間半で鉢伏山に到着。山頂には土の中に埋まっているはずの三角点の石柱が表土が削られて土の上に現れ横たわっています。360度の眺望が広がる絶景で昨日登ってきた氷ノ山の山頂付近には少し雪が残っている。北に目をやると稜線を北に向いて登山道が伸びている。これを見ると縦走したくなる気持ちがそそられる。下りは小代越経由で降りていくとキャンプ場の中の舗装道路になり地図上の登山道を探す、あまり歩かれていないようで藪に覆われて行けない。わずかな形跡のある道を辿って福定のバス停付近に到着する。車を回収し途中の温泉で汗を流して解散としました。記:杉本									
連番	1079	例会No.	一般 722	内容	(ベーシック登山No.67) 北摂・歌垣山(553m)例会記録	実施年月日	2022/5/22	担当者	野原、前田	
参加者	野原勇、前田守、近藤さとみ、駒井万生子、原正和、原康子							参加者数	6	
担当者コメント	集合時間になっても誰一人現れない。EPEのリーダーを務めて11年余り、初めての事態だ。現地集合の2名がいなければ改札に入ることもなく「中止」とするところでした。ところが改札に入ると、思いがけずホームに2名が待っていて計6名の例会となりました。今日は行動時間が2.5時間程度の例会。歌垣山登山口を9:25分出発、休憩を2回取りながらも10:10分には早くも歌垣山(男山)に到着。男山頂上は広場になっていて立派なログハウス風の建物1棟とこれまた立派な四阿(東屋)がありました。ここは昔、かがい(歌垣)と言われる「未婚の男女が定まった日に集まって即興の歌を交わし結婚相手を選んだ」という由緒ある場所らしい。下界の展望も良好。張り切り過ぎるとお昼前に下山しそうなのでゆっくりと休憩をとる。休憩後、歌垣山(女山)へ向かう。女山頂上には展望台の他に方向指示板を兼ねた石が埋め込まれた強固な三角点あり。なぜこのような強固に守られた三角点がこの程度の山に必要な。理由がさっぱりわからない。その後、下降に移り車道が走る堀越峠に到達。車道を渡り緩やかな登りがだらだらと続く舗装路を経て妙見奥の院を目指す。妙見奥の院本殿は百数十段の石段を登った先にある。ここは歴史のある寺(神社?)のようだが平素は無住寺なのかひと気がない。あと10分も歩けば下山口到着という日蓮宗の真如寺を過ぎた辺りで昼食休憩。ここを逃すと昼食を摂る前に登山が終わってしまう。やむを得ず昼食時間を作ったという感じだ。奥の院バス停で解散。歌垣山は関西50山に選ばれている山なのに登山中誰にも会わず静かな山登りを楽しめました。まだ暑さが本格化する前で歩きやすかったが、次回からは「うちわ」等の持参も必要ではと思った次第です。記:野原									
連番	1080	例会No.	一般 723	内容	丹波・白髪岳(722m)	実施年月日	2022/5/29	担当者	前田、野原	
参加者	前田守、野原勇、翁長和幸、西村晶、中村仁紀、佐野雅美、近藤さとみ、安岡和子、西村美幸、村木とも子、大森朋江、保木道代、安本昭久、安本嘉代、黒澤百合子							参加者数	15	
担当者コメント	駅をスタートして国道から天神川添いの道に入った。前方に三角形の白髪岳を見ながら、田植えの終わった道を行く。1時間半程の道を歩いていやになった頃、やっと登山口の東屋が見えてきた。そこから急峻な登りが続き、暑い為か息を切らしながら登った。山頂手前になると、いきなり鎖場が続いた。白髪岳山頂に着くと展望は良いが人が多くて、日影が無いので直ぐ下った。下りは急坂が続き、ロープが張ってある。下った所で昼食を取った。後は新緑の中を登ると松尾山の城跡広場に着いた。そこから30分程で新緑の紅葉がきれいな文保寺観音堂に降りた。ここから又1時間程道歩きをして篠山口駅に到着した。白髪岳はアプローチが長い、展望が良く、岩場が有り、歴史を感じさせる、変化に富んだコースだった。記:前田									

2022年度('21/11~'22/10)EPEクラブ活動報告

2022/10E現在 小椋

連番	1081	例会No.	一般 724	内容	銀峯山(614m)・竜王山(618.9m)歴史探訪シリーズ No.48	実施年月日	2022/6/5	担当者	小椋(勝)、前田
参加者	小椋勝久、前田守、村木とも子、村木正人、原康子、大森朋江、森本善博、杉本康夫、脇本勇二、神阪洋子、三原秀元、駒井万生子、小椋美佐							参加者数	13
担当者コメント	天誅組は幕府追討軍を迎え撃つため銀峯山に本陣を置き本陣には中山忠光、伴林光平が残り広橋峠に橋本若狭、樺ノ木峠に水郡善之祐を配置し追討軍と苦しい戦いをし、敗走して行く。西吉野コミュニティーセンターの東側に盲腸のように伸びた尾根の取りつきから銀峯山に向かって歩き始める。あまり人が歩いてないのか荒れた農道を県道と交差しながら歩くと途中で民家がありお年寄りが散歩しているのを見る。こんな高いところに住んでいるのかとびっくりする。途中銀峯山東側の中腹より大峰の山々を見ることができあれが大日、八経などと皆で盛り上がるしばらく歩き尾根に出ると農道に沿って大きな鳥居が現れる。波宝神社だ、境内まで行き裏手にある銀峯山へ行く。銀峯山には三角点はなく標識があるだけだ。境内で食事をとり恒例の講和を始める。拙い講和だが皆さん真剣に聞いてくれるので申し訳なく話す、次回はもう少し面白くと、いつも思うがうまく話せない。途中竜王山に行き国土地理院の地図にも記載されてない農道を歩き堀家住宅へと向かった。重要文化財堀家住宅は民間の施設になっており中には入れないが当時の面影を伺うことができる。門には吉村寅太郎の筆による「賀名生居居」の扁額(レプリカ)がかかっており天誅組の皇室への思いを読み取ることができる。隣の資料館でタクシーを呼び車で解散し帰途へとつきました。 記:小椋(勝)								
連番	1082	例会No.	一般 725	内容	金剛山(1.125m)	実施年月日	2022/6/12	担当者	西村(晶)、山倉
参加者	西村晶、山倉康次、中村仁紀、村木ともこ、脇本勇二、佐野雅美、大森朋江、保木道代、寺島直子、安本昭久、安本嘉代、飯尾廣子、河合幸夫、森本善博、安岡和子、村木正人、翁長和幸、近藤さとみ、峯岡宣重、上野あさみ、駒井万生子							参加者数	21
担当者コメント	ババ谷に入って左の沢沿いに少し登った所に咲いているのだが、咲いていない、足元をみまわすと小さな蕾が 今年には開花が遅いのだろうか 昨年のこの時期は満開でしたが、少し登ると道沿いに沢山咲いていました。薄紫の小さな花を沢山眺める事ができました。花の開花時期に例会を合わせるの難しいです。転法輪寺本堂手前の池の脇に真っ白な蕾と開花したオオヤマレンゲが咲いてました、6月の金剛山もお花がいっぱい咲いていました。 記:西村(晶)								
連番	1083	例会No.	一般 726	内容	播州 的場山(394m)	実施年月日	2022/6/19	担当者	前田、野原
参加者	前田守、野原勇、神阪洋子、渡辺健、堀千秋							参加者数	5
担当者コメント	本竜野駅から揖保川を渡る。龍野藩五万三千石の城下町で武家屋敷や白壁の土蔵等の歴史的な物が残っており「播磨の小京都」と呼ばれているだけ有りトロな雰囲気がいい。龍野城の裏山より鶏籠山を登った。山頂は山城で石垣や土塁、堅堀跡が残っていて、中世山城の雰囲気を味わうことが出来た。一旦両見峠まで下り的場山を登った。低山だけど暑い中、大汗をかきながら登った。的場山頂から竜野の市街地やその中をゆったり流れる揖保川が良く見えた。下山して小高い丘の白鷺山の童謡小径へ行っった。そこを歩くとセンサーが有り、懐かしい8曲の童謡のメロデーが流れるようになっていて、歌いながら歩いた。市内に入り、薄口醤油資料館で製造用具や作り方を見学した後、本竜野駅で解散をした。 記:前田								
連番	1084	例会No.	OP 352	内容	比良八池谷(やついけたに)(八淵の滝)	実施年月日	2022/6/19	担当者	山倉、森本(善)
参加者	山倉康次、森本善博、上野あさみ、脇本勇二、村木とも子、古松育代、駒井万生子、中村仁紀、安岡和子、中原正治、中原俊子、小椋美佐							参加者数	12
担当者コメント	梅雨の晴れ間を期待して久しぶりの沢登りに12名そろいました、マイカーに分乗して一路ガリバー旅行村を目指し、9時前にガリバー旅行村駐車場着、挨拶を済ませ、入渓箇所までは近いのでここで沢装束を装着してスタートしました。10時前入渓点の魚止の滝下着、ここで小休止、沢に入って天気は曇っていますが水の冷たさを感じませんでした、魚止の滝は左岸を水に濡れないように登ります、すぐ横に登山道が有りますができるだけ沢芯を歩き障子の滝下へ、滝のしぶきが心地よく感じられます、ここは右岸の壁に鎖があり登りやすそうですが濡れていて滑りそうです、念のためロープを出して一人ずつ10mほどの壁を登って右岸の巻き道へ出ました、ちょっとスリルのあるところです。しばらく遊歩道を行き、鎖を頼りにいったん沢に降りて左岸へ渡渉します。はしごや鎖をつかんで登ると、本日最大の滝貴船の滝が見られました。ゴルジュ状のところをへつたり、水の中を行ったり、変化に富んだコースです、13時ころ七遍返しの手前で遡行を終了し、遊歩道で駐車場に戻りました、途中からは天気も良くなり、皆さんも久しぶりの沢登りが楽しめたようでした。 記:山倉								
連番	1085	例会No.	一般 727	内容	(ベーツシク登山No.67)飛鳥・石造物めぐり	実施年月日	2022/6/26	担当者	杉本、翁長
参加者	杉本康夫、翁長和幸、神阪洋子、村木正人、近藤さとみ、村木とも子、森本善博、中村 仁紀、喜多田恵美子、三原秀元、脇本 勇二							参加者数	11
担当者コメント	飛鳥資料館西バス停から東に100?歩くと飛鳥資料館に着く。資料館の庭園にはこれからのルートにある石造物のレプリカが展示されている。ここを廻るとほとんどの石造物が見ることができるが、やはり足で歩いての石造物である。資料館では約100年間都がおかれた飛鳥時代から「日本のはじまり」の姿が見学することができました。資料館を出て最初に訪れたのは飛鳥寺、蘇我入鹿首塚。今回のメンバーのほとんどは子供の頃に飛鳥地方を訪れているので昔はこんなに整備されていなかった。野ざらしだった、説明の表示板があったと子供の頃からの変わりように感心している。酒船石では横からの切り出し跡があり何のために切り出されたのか考えさせられる。石舞台古墳は入場料が必要なので柵の外からまんじりと眺める。ここでも昔は無料であったので石室の上に登って遊んで写真を撮ったとか、いろいろな話が出てくる。稲淵地区の棚田は、日本の棚田100選に選ばれているので綺麗な棚田が並んでいる。今日は気温も高く日陰になるようなところも少なかったので涼しい休憩場所は非常に有難いです。最後に訪れたのは吉備姫王墓の柵の中には置かれている猿石を見学し飛鳥駅で解散としました。 記:杉本								
連番	1086	例会No.	OP 353	内容	北陸・三ノ峰(2,128m)	実施年月日	2022/7/2~3	担当者	小椋(勝)、杉本
参加者	小椋勝久、杉本康夫、村浪義光、中村仁紀、佐野雅美、小椋美佐、大森朋江、原正和、原康子、安岡和子							参加者数	10

2022年度('21/11~'22/10)EPEクラブ活動報告

2022/10E現在 小椋

担当者コメント	<p>7月2日 食料買い出しのため勝山市のスーパーに行く。半夏生で越前の風物詩となっている焼きサバを焼いて販売していました。一般的には蛸を食べるがこちらでは夏バテ防止で サバラしい。買い物を済ませ 長く狭い県道を小池キャンプ場に向かう。1日目は刈込池散策なので休憩後刈込池に向かう。茹だるような暑さの中、散策という言葉には ほど遠い階段状の登山道を上っていくと不覚にも熱中症になり頭痛と痙攣と吐き気が襲ってくる。苦しい思いをしながら池に着くとそこから観る三の峰は素晴らしく疲れも取ることができた。キャンプ地に帰りテントを設営、板谷会長の話の後黙禱を捧げた。その後、楽しみにしていたBBQを始める。山の話などで盛り上がり楽しさのあまり飲みすぎないように早々に切り上げ就寝した。</p> <p>7月3日 雨が降らないうちにと思い4時起床5時出発を目標にしていたがなんやかんやと時間がかかり 5時半過ぎに出発となった。テント場から頂上まで1200mの登りだ。天気を心配しながら 樹林帯を登っていくが暑い風もない、汗をかきながら六本檜に着き鳩が湯新道を三の峰に向かって進む。六本檜からは南に野伏ヶ岳、願教寺山 西に赤兎山が見える。展望はよい 剣ヶ岩に差し掛かるころ雷鳴が聞こえた。嫌な予感をしながら剣ヶ岩で雨具をだす。 尾根道にはニッコウキスゲ、シナノキンバイ、タカネバラ、等が咲いていて疲れも癒してくれる。冷たい雨の中、最後の急登を登りきると霧の中に三の峰避難小屋が見えてきた。 中に入ると20人~30人の登山者で一杯になっており立休憩を余儀なくされた。 少し休んで頂上に行くがガスで何も見えない。 下山道から小屋付近を見ると大きな雪渓がある。寒いわけだ、小屋に入り少し休憩後下山する。 下山途中に霧も取れ登って来た道が雲の合間から見えてきた雄大な景色に感激をする。 六本檜に差し掛かると雨も小雨になりただらと続く下山道を黙々と歩き林道に着くと雨も上がりテント場に向かって歩く。 途中温泉に寄り解散し帰阪の途に就きました。 記:小椋(勝)</p>											
	連番	1087	例会No.	一般 728	内容	岩湧山	実施年月日	2022/7/3	担当者	前田、翁長		
参加者											参加者数	
担当者コメント	雨天中止											
連番	1088	例会No.	一般 729	内容	金剛山(1,125m)石ブテ尾根	実施年月日	2022/7/10	担当者	杉本、小椋(勝)			
参加者	杉本康夫、小椋勝久、飯尾廣子、佐野雅美、谷忠明、黒澤百合子、中村仁紀、小椋美佐、上野あさみ、大森朋江、安岡和子、木下春雄、脇本勇二、西村美幸、翁長和幸、他1名										参加者数	16
担当者コメント	<p>今年は梅雨明けが早く連日30度超えの日が続いて暑さに慣れていない体は少々バテ気味です。金剛山の山頂はさぞかし涼しいだろうなど思いながら出発する。30分の林道歩きの後石ブテ尾根の末端から取り付く。ここから今日一番の急登の始まりです。樹林の中であっても暑く汗だくになりながら40分でやっと緩傾斜になり休憩する。熱中症が気になるので十分な水分補給と少し長めの休憩時間をとる。傾斜もゆるくなってもまだまだ登りは続く。六道の辻で一般道と合流し道は広がる。大日岳まで来ると登りも一段落するが蒸し暑くゆっくり休憩できそうになくそのまま通過する。金剛山の山頂広い場は人が多く、特にライブカメラの前には12時に配信されるということで多くの人がカメラの前に集まっている。私たちは人込みを避け一段下の広場で昼食休憩とする。気温は20度。涼しい。馬の背登山道は途中で沢の横を歩くようになるので涼しく短時間で下山できる。約1時間でロープウェイ前登山口に到着解散とする。 記:杉本</p>											
連番	1089	例会No.	OP 354	内容	北アルプス 大日岳(2498m)~奥大日岳(2605.5m)縦走(2,128m)	実施年月日	2022/7/16~18	担当者	山倉			
参加者	山倉康次、上野あさみ 村木とも子 中村仁紀 大森朋江 佐野雅美 小椋美佐 駒井万生子										参加者数	8
担当者コメント	<p>今回当初の行動予定は大日小屋を利用して奥大日まで縦走する予定でしたが、大日小屋の予約が6月初旬に満員で取れませんでしたので、大日平山荘を利用して大日岳往復に変更しました。</p> <p>7月16日 朝7時難波に集合後車に分乗して今日の泊地称名道路の終点を目指します、当初の予定から2名のキャンセルがあり、又副担当の森本さんも体調不良で不参加、総勢8名になりました、道路事情は問題なく、すんなり目的地に着きましたが、直後から大雨に見舞われました、たまたま見つけた四阿に駆け込み雨をしのいでテントを張りました。</p> <p>7月17日 昨夜の雨も上がり、曇っていますがまずまずの天気です、泊地から称名滝駐車場に移動して5時半出発準備完了6時前称名滝下の登山口へ、昨夜の雨でハンノキ滝が出現していました、称名川の漢音を聴きながら大日平への急登を登ること約2時間、大日平へ続く湿原へ出ました、ここからはほぼ水平な木道を辿ります、期待していたほどお花畑はありませんでしたが、さわやかな気分になります、8時50分今日の泊地大日平山荘に到着、小休止後大日岳往復に向かいました、しばらくは木道が続き、1か所雪渓を横切、木道がなくなるころから沢伝いの急登が始まります、標高約2300m付近で若干1名が足の不調を訴え停滞、12:30先行する全員に約2400m付近で追いつきましたがこのころから雨が降り始めました、稜線の大日小屋は見えていますがこのペースであればここから大日のピーク往復に約2時間、山荘への下山が3時間、雨の中の計5時間の行動となります、中止下山を全員に納得していただき安全を期して山荘へ下山することとしました、3時ころには山荘に到着しゆっくりしました。 7月18日 おいしい朝食を頂き、6時山荘を後に9時前には登山口へ下山しました。今回の山行は、出発前の天気予報に惑わされて、中止か実行かかなり迷いました、実施して頂上までたどり着けず、雄大な剣岳も見られませんでしたでしたが、楽しい皆さんと楽しく登山ができて来てよかったと思っています、参加された皆様もこれに懲りず今後このような山行に参加していただけるよう企画してゆきたいと思っています、ありがとうございました。 記:山倉</p>											
連番	1090	例会No.	OP 355	内容	北アルプス・剣岳	実施年月日	2022/7/21~25	担当者	野原、杉本			
参加者											参加者数	
担当者コメント	雨天中止											
連番	1091	例会No.	一般 730	内容	宇治・喜撰山(415.9m)	実施年月日	2022/7/31	担当者	杉本、山倉			
参加者	杉本康夫、山倉康次、谷忠明、中村仁紀、保木道代、佐野雅美 大森朋江、安本嘉代、安本昭久、上野あさみ										参加者数	10

2022年度('21/11~'22/10)EPEクラブ活動報告

2022/10E現在 小椋

担当者コメント	<p>京阪・宇治駅からしばらく街中を歩き宇治上神社境内から仏得山の山道に入る。山道といっても近在の人たちの散歩道のように道幅が広く傾斜も緩やかです。30分ほどで東屋があり平等院鳳凰堂が望まれる。案内板も設置されていて今のところ山という雰囲気ではない。仏得山の三角点には小石がうずたかく積み上げられて三角点が隠れそうになっている。ここから山道らしくなっているがあまり人が歩いていないようで踏み跡が薄い。朝日山を越えしばらく山道が続き一旦志津川の集落に出て神女神社の脇から山道に入る。入り口が解りづらく道も獣道のような踏み跡がわずかにある程度になっている。山中は自然林の中の道なので気温ほどの体感温度はない。喜撰山の登り口からは喜撰山ダムが見える。今回のルートには「らくなんトレイル」のビニールテープが木に巻かれている。喜撰山にも三角点がある。20分も下ると林道が現れ暫く歩くと遊歩道に出てたくさんのややこしい道になる。この付近まで下りて来ると低山ゆえに暑さが身にこたえるようになる。天ヶ瀬ダム管理事務所前では用意していた飲み物が足りず自動販売機で水分を補給する。予定したコースが通行止めで通れず暑い中府道を30分ほど歩いて宇治駅に到着、解散しました。 記:杉本</p>									
連番	1092	例会No.	一般 731	内容	金剛山・寺谷	実施年月日	2022/8/7	担当者	翁長、山倉	
参加者	翁長和幸、山倉康次、森本善博、西村 晶、中村仁紀、中原正治、中原俊子、木下春雄、安岡和子、祓川美登里、西向美保子、佐野雅美、大森朋江、谷 忠明、上野あさみ							参加者数	15	
担当者コメント	<p>急増するコロナを気にしながら、混み合ったバスで金剛山ロープウェイ前へ。念仏坂の文殊尾根取り付きより、少し登った処から寺谷道に入る。古い木のはしごが多く、滑らないように注意しながら通過していく。30分程で1回目の休憩を入れるが、もう汗ビッシリ。小さなつづら折りを登るとロープウェイ駅への遊歩道にでる。ここより少し下った処に、文殊尾根の名前の元となった岩がある。金剛山では珍しい大岩の文殊岩である。修験道の行場でもあるらしい。おごそかな雰囲気が漂い両手を合わす。湧出岳をへて野営場で休憩。伏見峠からは、いかにも金剛山らしい景観になる。大きな木々の間を一本の山道がずうと続く。樹間をさわやかな涼風が吹き抜け、自然の心地良さに何度か立ち止まる。久留野峠を下り最初の駐車場で解散。例会案内の「涼しさを求めて寺谷へ・・・」という寺谷より、伏見峠からの尾根筋での「涼」を感じる金剛山でした。 記:翁長</p>									
連番	1093	例会No.	一般 732	内容	岩湧山・千石谷	実施年月日	2022/8/21	担当者	翁長、杉本	
参加者								参加者数		
担当者コメント	雨天中止									
連番	1094	例会No.	一般 733	内容	(ベーシック登山No.69) 但馬・立雲峡～竹田城址	実施年月日	2022/8/28	担当者	野原、翁長	
参加者	野原勇、翁長和幸、村木正人、村木とも子、中川由紀、西向美保子、大岡華子、谷忠明、實操綾子、原康子、森本善博、杉本康夫 (体験参加)安田香織、秦典子							参加者数	14	
担当者コメント	<p>竹田城は遠い！ 大阪駅出発から約3時間の鉄道旅。当初は立雲峡を先に考えていたが、帰りの電車の便を考え竹田城址を先にすることに変更。本日は体験参加者が2名、簡単な自己紹介をして城跡までの登山開始。登高コースは駅裏登山道。登山口までの道路沿いの用水路には鯉が泳いでおり、津和野を思い出しました。登山口から少し歩くと料金場まで800mの表示があり、その後100m毎に表示板があるが長かったり短かったりで距離表示に？を感じる。竹田城は慶長5年(1600年、関ヶ原の戦いのあった年)に城主の赤松広秀が徳川家康に切腹を命ぜられ廃城。石垣は破壊されることなくほぼ完全な状態で現在まで残る稀有な山城遺跡。本丸跡から見る景色は絶景、周囲360度遮るものがない。視界を下げると竹田の町並みが手に取るように見えました。この竹田城跡を歩いて感じたことが三つ。一つ目はざっと東西100m南北400mの広い城郭、築城当時の石垣が残り展望抜群。二つ目が2015年に設置されたという黒いマット敷きの通路。歩行者の転倒防止と地面の露出防止が目的らしいが、歩いた実感としてもソフトな感覚、足に優しく気に入りました。三つ目が郷土愛を持ったボランティアガイドの存在、観光客に親切に対応していました。本丸跡で立雲峡までのタクシー予約を入れる。下降路は表米神社登山道を選んだが460段といわれる階段の連続。足を置くところが凹んでいて歩きにくい。ここを登路に選ばなくて正解。予定外だったが帰りの電車の便を考え竹田駅から立雲峡駐車場までタクシーを利用。立雲峡受付で入場料を払い展望台へ。当初は第一展望台までの予定だったが、第一展望台の直ぐ上に昨年秋に「立雲峡テラス」新設されたとのこと。さらに今年春に「光の道天望所」という施設も増設、撮影用スタンドも設置されていてカメラのファインダーから覗くと竹田城址に向かって光の道が通っているという面白い設備で一見の価値ありです。その上部にあった「大成池」を巡るなど十分に展望を楽しみ駐車場まで下降、往路にタクシーを使った車道を帰りは徒歩で竹田駅まで歩き駅前まで本例会を解散。残暑厳しい中、参加メンバーの皆様お疲れさまでした。 記:野原</p>									
連番	1095	例会No.	一般 734	内容	京都北山・十三石山(495.5m)	実施年月日	2022/9/4	担当者	杉本、野原	
参加者	杉本康夫、野原勇、西村晶 西村美幸 中原正治 中原俊子 村木とも子 大森朋江 前田守 三原秀元 佐野雅美							参加者数	11	
担当者コメント	<p>台風の影響で雨が続けていたが、雨も収まり太陽が望まれる天候になった。うれしい反面猛暑が戻って暑い暑いと言いつつ山の山行になった。釈迦谷山へは車道のガードレールの隙間から斜度40度ぐらいのトラロープが張られている高差10m程度の斜面を登る。そこからわずかに踏み跡があるぐらいでピンクのテープがあったので15分で山頂に到着。山頂からはきれいなはっきりした登山道になる。この差はなんだと思いつつながら車道に降り立つ。ここからしばらく車道を歩き以前EPE例会で実施された京都トレイルに合流する。途中に城山のピークが見えたが山頂へのルートがあるか不明なのでそのまま車道に行く。小峠から京都トレイルから離れ十三石山を目指す。歩く人が少ないようでルートも不明瞭なところもある。満樹峠手前で樹林の中に展望台との標識があり比叡山方面が見渡せた。十三石山は本峰とその先に西峰があるので西峰に行こうとしたがルートがなく諦め本峰で休憩とする。高さは本峰のほうが高いようだ。山幸橋で予定している向山のルートを行くと時間が掛かりそうなのと、暑さで体力も消耗しているようなのでここから市原駅と変更する。舗装道路になったが楽に駅まで行くことができ、市原駅で解散としました。 記:杉本</p>									
連番	1096	例会No.	一般 735	内容	岩湧山 金山谷	実施年月日	2022/9/11	担当者	前田、西村(晶)	
参加者	前田守、西村晶、飯尾廣子、谷忠明、中村仁紀、村木とも子、安岡和子、村木正人、木下春雄、有永寛、佐野雅美、三原秀元、岩本和行、翁長和幸、保木道代、安本嘉代、上野あさみ、黒澤百合子、西村美幸、大森朋江							参加者数	20	

2022年度('21/11~'22/10)EPEクラブ活動報告

2022/10E現在 小椋

担当者コメント	滝尻から横谷林道を通って、金山谷林道の最終点から谷に入った。右岸、左岸と渡りながら縫うように登って行った。今日は水量が多いようで、苔の付いた岩を渡る時は慎重に進む。1時間程で正面に30mぐらいの布引滝が表れた。滝を見ていると涼しさを感じた。ここから小尾根を登って林道に出た。林道を登って岩湧寺に着いた。寺の斜面一帯が秋海棠で満開だった。秋海棠は江戸時代、中国から園芸種として入ってきた帰化植物である。花自体は地味だけど一面に咲いていると見事である。ここから岩湧山に登る予定でしたが、車で来た人はダムサイトに駐車しており、4時に門が閉まるので岩湧山に登ると間に合わない。林道を滝畑まで歩くことにした。今日も陽射しが強いが木々の下を歩くと汗も少なく、秋になったなあと思いつつながら、滝畑ダムサイトに解散をした。記:前田									
連番	1097	例会No.	OP 356	内容	八ヶ岳連峰・赤岳	実施年月日	2022/9/17~19	担当者	小椋(勝)、西野	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	1098	例会No.	一般 736	内容	大和葛城山(960m)	実施年月日	2022/9/18	担当者	西村(晶)、山倉	
参加者	西村晶、山倉康次、佐野雅美、大森朋江、保木道代、森本善博、安岡和子、上野あさみ、谷忠明、杉本康夫、有永寛、西村美幸								参加者数	12
担当者コメント	葛城登山口に向かう車窓からは田んぼのあぜ道に赤色の彼岸花が咲き始めていました。トンネル手前の陸橋より天狗谷に向かう。標高430mあたりより天狗谷に入る、谷沿いの道は風がなくて汗が吹きこぼれる、788mの尾根まで登ると、通り抜ける風に涼しさを感じさせてくれました。緩やかな尾根筋を進むと、道沿いには山芋のつるに小さなムカゴと小さなアケビも実っていましたが収穫時期はもう少し先のようです。頂上に広がる高原、黄金色に輝くスキの穂先が風と共に揺らぐ、秋の絶景は次回の楽しみに残しておこう。四季の変化を楽しませてくれる大和葛城山は素敵な山です。記:西村(晶)									
連番	1099	例会No.	OP 357	内容	北アルプス・針ノ木岳	実施年月日	2022/9/23~25	担当者	山倉、森本(善)	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	1100	例会No.	一般 737	内容	和泉山脈・横尾山周回	実施年月日	2022/9/25	担当者	翁長、前田	
参加者	翁長和幸、前田守、森本善博、飛田典男、原 正和、原 康子、中嶋恵子、西向 美保子、木下春雄、飯尾廣子、安岡和子、岩本和行、杉本康夫、中原正治、中原俊子、大森朋江、佐野雅美								参加者数	17
担当者コメント	10:10、青少年の家の横を通り八が丸山へ。山頂部には芝生のきれいな広場があった。子供ならば野球が出来そうな広さで、手入れが良く行き届いている。展望台で初めての休憩とする。横尾山の周回はここから始まる。小さな登り、下りをへて五ツ辻へ。五ツ辻から施福寺までは何度通ったか分からないほど歩いている。お寺に着いてみると参拝客が少なく閑散としている。今年9月からの入山料500円の影響か？施福寺が聖域として岩場の立ち入りも禁止しているので、我々がここに来る事は、もう少ないと思われる。その為、記念に集合写真を撮り周回の後半に進む。ここからはハイカーに合う事はない。道幅は広いが歩く所以外は草に覆われ、何年か前の台風による倒木がコースを遮っている。手入れがされていないようであるが、小さな石仏をたびたび見かける。この道は施福寺に向かう古道であると誰かが云っていた。東横尾川への分岐を過ぎると踏み跡が不明瞭になってくる。卒塔婆峰、トソツ岳を過ぎ大谷に入る。ここも以前の台風の影響か、かなり荒れている。道らしいものはほとんどない。水際に行くが苔で滑りやすく危ないコースになっている。フェンスで仕切られた車道に出て、16:50青少年の家前で解散した。記:翁長									
連番	1101	例会No.	一般 738	内容	六甲・十八丁尾根~六甲山最高峰(931m)	実施年月日	2022/10/2	担当者	杉本、西村(晶)	
参加者	杉本康夫、西村晶、森本善博、中原俊子、中原正治、岩本和行、峯岡宣重、河合幸夫、佐野雅美、大森朋江、駒井万生子、西村美幸、保木道代、谷忠明、中村仁紀、北山かな、安本嘉代、安本昭久								参加者数	18
担当者コメント	白水峡墓園前バス停から有馬街道を200m程歩くと車が入れないように柵がしてあり、その横から林道を十八丁尾根ルートへと入る。舗装した林道だがほとんど人も車も通っている様子がなく背の高い雑草が生い茂っている。林道の途中から右手の十八丁尾根の末端のピークを目指しわずかな踏み跡を探しながら登る。約40分でピークに到着。ここから尾根通しの道になり踏み跡も分るようになって歩きやすくなる。十八丁尾根の中間地点に十八丁山があり下を見れば芦有ドライブウェイが走っていてちょうどトンネルの真上に私たちがいる。十八丁尾根を登り切ったところの舗装道路に出ると、アサギマダラが私たちの話声で一斉に飛び立つ。その姿は圧巻で感動ものでした。六甲山頂の下に以前は汚いトイレがあったが、今回行ってみるときれいに建て替えられて広場になっている。六甲山頂は近くに来て立ち寄らないこともあるが、今回は山頂を踏むことにした。西おたふく山の横を通り五助ダムを通って下っていくと北面に比べ南面のほうが太陽が当たることもあり暑さを感じる。御影駅手前の住吉台団地内のエクセル東バス停と御影駅方面への分岐点で解散とした。記:杉本									
連番	1102	例会No.	一般 739	内容	大和・龍王山 プラスα No.28	実施年月日	2022/10/9	担当者	西村(晶)、山倉	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	1103	例会No.	一般 740	内容	天辻峠~乗鞍岳 歴史探訪シリーズ No.49	実施年月日	2022/10/16	担当者	小椋(勝)、森本(善)	
参加者									参加者数	
担当者コメント	中止									
連番	1104	例会No.	OP 358	内容	台高・山ノ神ノ頭~池木屋山	実施年月日	2022/10/21~23	担当者	杉本、小椋(勝)	
参加者									参加者数	

2022年度('21/11~'22/10)EPEクラブ活動報告

2022/10E現在 小椋

担当者	中止									
コメント										
連番	1105	例会No.	一般 741	内容	六甲山 ロックガーデン	実施年月日	2022/10/23	担当者	前田、山倉	
参加者	前田守、山倉康次、村木とも子、安本嘉代、黒澤百合子、近藤さとみ、保木道代、佐野雅美、三原秀元、中原正治、中原俊子、森本善博、村木正人、谷忠明、中村仁紀、岩本和行								参加者数	16
担当者コメント	芦屋川駅前には登山者で一杯なので、その先の広場でスタート前の挨拶行った。大谷茶屋から地獄谷に入った。小学生の女の子と親が地獄谷を登った後、A懸で岩登りをやっていた。小さい子が岩登りするのを見て驚いた。七曲りでマムシが目の前をゆっくり横断していった。こんな所にもいるのか。私はマムシが怖くて、山へ行った時、沢や藪漕ぎがあると咬まれないか、いつも心配する。六甲山頂下のトイレが建て替えられ綺麗になっていた、その前の広場で休憩をする。山頂周辺では紅葉が始まっていた。今日は地獄谷とロックガーデンで時間が掛かって遅れて、行程4時間半の予定が7時間になり、ふらふらになりながら下り、有馬温泉で解散をした。 記:前田									
連番	1106	例会No.	一般 742	内容	麻呂子山～二上山(517m)	実施年月日	2022/10/30	担当者	森本(善)、小椋(勝)	
参加者	村木とも子・駒井万生子・飯尾廣子・保木道代・小椋美佐・上野あさみ・前田守・谷忠明・村木正人・峯岡宣重・佐野雅美・大森朋江								参加者数	14
担当者コメント	「二上山、されど二上山」「山高きが故に貴からず」が参加者の登山中、登山後の感想でした。快晴の中、駅より當麻寺(山号は二上山)まで門前通りを観光気分で歩き、寺の本堂(国宝)に健康等を心の中で祈り、登山口へ向かう。参加者より「え！急な登りがあるの？」の声の中20～30メートルの竹林の中の急登後、二上山へ続く尾根上に出る。麻呂子山(この名前は、聖徳太子の義理の弟の名前)を登頂し、その後奈良盆地の南部を眺められる尾根上にて休憩。手作りのベンチもあり尾根を吹き抜ける秋風は涼しく、癒してくれます。その後、原岳を過ぎ、岩屋峠に出る。ここまで誰も会わず静かなしかし会話のある道すがらです。岩屋峠からは、二上山(雌岳)までつづら状の登山道を登り、日時計のある頂上にて昼食。昼食後、一旦馬の背に下り大津皇子(宮内庁管理です)の眠る雄岳に登り返す。頂上では葛城修験第二十六番経塚を見学(経塚の隣には葛木二上神社があり、鎌倉初期の『諸山縁起』によれば、経塚はこの岩屋にあったとされ、後に二上山頂に移されたと考えられる。)後、大津皇子の御陵を見学。下山途中、麓にある二上神社に参拝し二上神社口駅へ着いた。 記:森本(善)									
一般例会： 45回／529名 オプション例会： 17回／91名 例会合計： 62回 参加者総数： 620名										